

氏名	李相一
研修先機関名	Mayo Clinic
<p>最初の3ヶ月は新人に逆戻りする—そういった話を昔聞いたことがありますが、今まさにその思いにさいなまれています。</p> <p>ロチェスターにきて2ヶ月が過ぎました。最初のER研修が終わり今私は7DEというところにいる。ここは外科ICUであり麻酔科の管轄になっています。ローテーションには私たちERレジデントのほかにも外科サブスペシャルティ、たとえば今月の場合は耳鼻科、整形外科、産婦人科のジュニアレジデントがいます。その上には麻酔科のシニアレジデント、集中治療フェローが入り混じって参加しており指導医として麻酔科集中治療医がいます。</p> <p>ここでは朝6時に私たちジュニアレジデントの回診、指導医&シニアレジデントの回診が同時に並行して行われます。ほとんどの治療プランはこの時点である程度決まるのですが8時になると皆で総回診を行います。私たちジュニアが担当患者さんの簡単なサマリー、昨晚の変化、バイタルサイン、I/O、検査値、レントゲン、培養結果などを報告した後にICU特有のシステムごとのプランを述べていきます。なれないうちはこのシステムごとのプランをまとめることができず全体から白い目でみられることが多々ありました。</p> <p>それが終わると1時間ほどの指導医の講義があり、低酸素血症、敗血症、ARDSなど集中治療向けの勉強をすることができます。指導医の中にはその日に話題に上ったテーマに沿った文献を渡してくれることもあります。</p> <p>昼ごろになると入室があったり現在経過観察中の患者さんたちの検査のフォロー、薬剤の変更や他科との連絡をとることになります。月曜日、木曜日は特に手術件数が多くその分入室が多い傾向にあります。</p> <p>入室がある際は入院オーダー、カルテ記載をすることになります。基本的なオーダーはすべてジュニアレジデントが行いそれをシニアが調整し、最終的に指導医が確認することになっています。</p> <p>当直以外のレジデントはこの時点で帰宅し、残りは当直医の業務になります。</p> <p>当直中はあまり休むこともできませんがバライティーにとんだ症例をみて経験をつむことができます。特に鎮痛、沈静、抗菌薬、I/Oバランス、補液などを学ぶよい機会になります。手技に関してはシニアが大部分を行ってしまうためもっぱら症例数を重ねることに重点が置かれます。</p> <p>麻酔科が管轄しているICUであるため鎮痛に関して非常に細かいところですが、レジデント同士仲がよく和気藹々と研修ができる場所です。ただし最初の数日は言葉の問題やシステムのなれなどのせいか非常にお粗末な出来でシニアに叱咤されることが多くありました。いまだ病態の整理や次のプランに関して足りないところも多く、反省仕切りの毎日ですが。</p> <p>1ヶ月のローテーションの中で久しぶりに睡眠がほとんどとれない当直をこなしました。ICU特有のシステムになれるにはもう少し時間がかかりそうです。救急専門医が最近集中治療専門医資格を得ることができるという話もあり、興味のある分野です。</p> <p>当直で苦楽をともにしたシニアレジデントに当直明けにお礼をいいました。またすぐ会えるからさよならはいわなくていいよ、とっていました。厳しく指導された1ヶ月でしたがシニアにとってもつらい1ヶ月であるらしく、安堵の表情をにじませていました。</p>	